

2011年3月11日（金）の東日本大震災に対して、行ったボランティア活動について報告する。

1. 福島県南相馬市，宮城県丸森町

1. 1. 日時

2011年4月16, 17日（土, 日）

1. 2. 目的

フレッシュやおかねの金子さんから提供頂いた卵、人参キャベツ、白菜、ジャガイモ、玉ねぎ、牛蒡、大根を避難所（原町第一小学校（原一小）体育館）に持ち込む。ハッピーチェアプロジェクトの垣内さんに手配をしてもらった車いす8台も南相馬市に運び込む（5台は自衛隊，3台は避難所（原一小体育館））。丸森町の避難所で岐阜からの民主若手議員らとともに、飛騨牛の牛井やみたらし団子やヤマメの甘露煮の炊き出しを行う。その他、市長や議員，保安院の人らと打ち合わせや情報収集などを行う。また、小学校における放射線量のスクリーニングも行う。

1. 3. 日程

4月15日（金）

19時半 つくばフレッシュやおかねで卵300個、それぞれ段ボールにいっぱいの人参・キャベツ・白菜・ジャガイモ・玉ねぎに数十本の牛蒡と大根をもらう。車で我孫子に運ぶ。

4月16日（土）

1時 我孫子から出発（高邑議員，落合聖史，篠原）

6時50分 南相馬市役所着

7時 災害対策本部会議（桜井市長，市役所各部署責任者，自衛隊責任者，警察責任者，消防責任者，東北電力担当者など）

7時半 市長と話し（桜井市長，高邑議員，篠原）

8時 福祉課で車いす受け入れに関する話し（高島課長，篠原）

8時半 原一小に、卵，野菜を届ける（落合，篠原）

9時 渡辺さん事務所出発（高邑議員，今井雅人議員ら岐阜からの支援軍団，渡辺さん，落合，篠原）

10時 宮城県丸森町筆甫小学校着（南相馬市避難所）

炊き出し準備，野菜の手渡し，生活・食料事情についての聞き取り

11時半 みたらし団子配布

12時 牛井・ヤマメ配布開始

14時 撤収

14時半 相馬総合卸売市場・佐川急便相馬集積場で、車いす到着の相談（現場の方，落合，篠原）

16時 市長，池田経産副大臣と話し（池田副大臣，桜井市長，高邑議員，志間，濱野，苦瓜，篠原）

17時 市長，保安員らと復興に関しての話し（桜井市長，高邑議員，志間，濱野，苦瓜，篠原）

18時 保安員・経産省と復興に関しての話し（高邑議員，志間，濱野，苦瓜，篠原）

19時 事務所に帰る，インスタント麺食べて寝袋で寝る

4月17日(日)

- 7時 災害対策本部会議(桜井市長, 市役所各部署責任者, 自衛隊責任者, 警察責任者, 消防責任者, 東北電力担当者など)
- 7時45分 小川市議に小学校再開に向けた情報を教えていただく(小川, 篠原)
- 8時40分 ボランティアセンターに行き, 落合君を遺留品洗浄のボランティアに参加してもらう手配
- 9時 ボランティアセンターで, 今後の人員の必要量や作業量について聞き取り(鴻巣さん, 篠原)
- 9時半 総合卸売市場から車いす到着の連絡, 小川町体育館から市役所までの誘導
市役所での車いす下ろしこみ, 福祉課への提供(市長が降りてきて下さり市長にも説明)
- 11時15分 枝野官房長官, 南相馬市役所に到着, 市長らとの会談
- 11時45分 官房長官, 20km圏内視察へ出発
- 11時50分 市長記者会見
- 12時15分 来週から遺留品展示会場となる栄町柔剣道場を視察(高邑, 篠原)
- 12時半 保健所におけるスクリーニング作業を視察(高邑, 篠原)
(官房長官の20km圏内視察を終えての囲み取材)
- 13時 津波被害地瓦礫撤去作業ボランティア前線基地となりうる高平小及び周辺視察(高邑, 篠原)
- 14時15分 小学校内放射線量計測に出発(小川, 篠原)
- 14時半 上真野小学校着, 測定開始
- 16時10分 鹿島中到着, 測定開始
- 16時40分 原一小に車いす三台を届ける(小川, 篠原)
- 17時 増子前経産副大臣, 桜井市長らとの話しに合流
(増子, 桜井, 高邑, 志間, 濱野, 小川, 篠原)
- 17時45分 南相馬市役所出発
- 22時過ぎ 我孫子到着

1. 4. 被災地についての情報

災害対策本部会議、市長や副大臣や市議らとの話し合いから得られた情報を以下に整理した。

・被災状況

16日朝時点 死者462人, 内, 身元判明者は375人(14日は6遺体が見つかった)

17日朝時点 死者473人, 内, 身元判明者は382人, 322人はご遺族に引き渡し

自衛隊は330人態勢で捜索を実施しているが, 今後倍増させることになっている。20km圏内での捜索は, 238名の警視庁が実施。水深2~3mあるため, 排水後に重機を入れられるが, 排水の見通しはまだ立っていない。警察・広域消防・消防団・自衛隊が捜索を実施している。

・避難区域について

20~30km圏内の市民の戻りは加速しているようだ。義援金の説明会への参加者(7ヶ所で9,300名)を考えると, 4万人は戻ってきているのではないかとの推定がなされていた。

また, 避難区域の設定の変更が近々あり, モニタリング結果も踏まえて, 警戒区域(立ち入り禁止, 罰則あり), 計画避難区域, 緊急避難区域の設定になるようで, 避難者の一時帰宅や物資や郵便等の改善が見込まれる。

・被災者・避難者の動向

避難者の人数は16日時点で296人（原一小125人，石神小80人，鹿島第一デイケアセンター91人）、17日時点で309人（原一小126人，石神小90人，鹿島第一デイケアセンター93人）。旧相馬女子高の避難所を廃止にするため、旧相馬女子高から飯坂などの他地域への避難を開始しており、18日には移動を完了するらしい。自家用車を持っていない30人について、最後にバスで飯坂温泉に移送する。新たな避難所として石神小学校が追加され、さらに原二中で避難所を開設準備中らしい。避難所における避難者の人数は増加しているが、20～30km圏内の方の中には自宅に戻られる方も増えているとのことだった。

・要援護者について

自衛隊空挺団が270名態勢で引き続き在宅者調査を実施している。30m圏内には計180名が残られている。そのうち2名はヘリでの搬送が必要な方、60名は救急車で搬送が必要な方である。

・物資・郵便・金融機関等の生活に関わる状況

相馬市内や鹿島区内では、商店や飲食店がほぼ通常通りの営業をし始めている。一方、南相馬市の30km圏内では、開き始めた店も増えてきてはいるが、まだ開いていない店も多く、物資の流入も悪い状況は続いている。相変わらず、郵便局は郡山で全て止めており、宅配便も相馬市内・鹿島区内で留め置きとなっている。金融機関も、ATMは開くようになったが、窓口営業は都市銀行・地方銀行ともに全くしていない。ただ、信用金庫が二行（阿武隈信用金庫と相双信用金庫）のみ、窓口営業もしている。

ガソリンについては、民間の供給がよくなってきたため、行政としての供給を一旦停止することにした。生活支援物資については不足している部分も多くみられるため、15日には、水とマスクについて支援物資の配布を行い、3,143世帯が受け取った。

・教育について

鹿島区内の学校や体育館等を使用して、22日から学校再開の予定となり、15日までに体育館の間仕切りの設置や机や椅子の運び込みが行われた。また、下水も整備して仮設トイレも設置された。図書館や図工室や音楽室等も全て机等を入れ替えて教室として使用する。体育館は仕切りを作って教室とする。小学校は、鹿島小学校、八沢小学校、上真野小学校、前川原体育館、農村環境改善センターにおいて、それぞれ4校、6校、4校、1校、1校を受け入れる。中学校は、鹿島中学校と鹿島小学校体育館において、それぞれ5校および1校を受け入れて、授業を行う。

通学方法としては、各学校の体育館や教室を集合場所として、スクールバスで送迎を行う。下校時刻は、低学年で13時もしくは14時、高学年及び中学生で15時もしくは16時とされている。昼食は炊出し配給がなされることになっている。他市における避難所も、近隣避難所からは送迎バスで受け入れる方向。

現在のところ、1,600人の受け入れが可能な体制だが、4,000人は受け入れられるようにしたいようだ。一台50人乗りのバスが80台必要な計算となる。

また、各学校に線量計を配布する予定となっている。

・病院

総合病院では、15日の診療は診察73件、処方136件であり、16日の診療は一次救急の実のため診察1件、処方20件であった。また、総合病院では未だに入院患者の受け入れを出来ないまま。県

からの許可がようやく5床降りたらしいが、80床のキャパに対して少なすぎる。目の前で桜井市長と高邑議員が入院患者受け入れ数を支給増加させるように電話で調整し、数日のうちには増やせる見込み。なお、30km圏内は今もドクターヘリの飛行が禁止されているらしく、急患のオペも病院でできない状況は非常に危ない。

・スクリーニングについて

現在、相双保健所において希望者の放射線量のスクリーニングが行われており、15日には772人が、16日には674人がスクリーニングを受けた。保健所の外の受付において、サーベイメーターでの測定を行い、13,000 CPMを超えた場合に除染をすることになっている。ただし、20km圏内から避難もしくは移動してきた人は、受付も屋外ではなく保健所内で行う。受付やスクリーニング担当者は、みな防護服を身につけている。16日には長靴で15,000 CPMを記録した人が部分除染を行った。大熊町・浪江町に入ったという県外の人だったらしい。

最近では、前もって大人数で予約をした上で避難所からバスで一時帰宅して、スクリーニングをして帰るといった方が増えているらしい。



・犯罪・治安について

窃盗事件（車上荒らし）が、起きていることが一時帰宅で判明した方がいる。空き巣についても、小高区内で2件新たに判明し、テレビ等の家電製品が多く盗まれているようだ。また、駐車場内での接触事故も多発している。また、20km圏内での牛の徘徊が問題となりつつある。

震災直後に感じた野犬の問題がさらに深刻化しているようで、保健所で聞いた話では、20km圏内で車を走らせて停まると、野犬の群れが車のボンネットの上にあがって餌を欲しがることがあったらしい。いくつかのNPOや個人が20km圏内に入ってはペットを連れだすということもやっているようだ。被災して飼えない人に対しては、しばらく預かるような団体も存在しているらしい。



・農業

農業については、今年一年間の作付けを中止することを市として決定した。そのことに対する補償も求めていく。津波で被害に合った沿岸部一帯の水田は、日照量が多いことから、山側の水田と比較して2割くらい収穫量が大きいらしい。代替地の準備もまだ始まっていないようだが、換地の時に問題になると思われる。

・商工業

商工業については、再開し始めているが、物資が入ってこないために、フル稼働できない。物資を福島や相馬まで取りに行くことは、生産効率が大きく低下し、困っている企業が多い。また、解雇や休職をお願いするケースも増加している。その際に、企業として、失業給付より雇用調整助成金（雇調金）を望むケースの方が多いらしい。雇調金は企業に2割負担が生じるが3年間なので、1年間の失業給付よりも望まれている可能性があるらしい。現在の状況に対して、1年程度で改善するとは考えていない企業が多いことを示しているかもしれない。

小高区の大内新興化学は、有機ゴムのトップメーカーであり、日本の自動車の奥に使用されている

らしいが、20km 圏内であるために操業を再開できていない。

工業製品の放射線測定について、郡山といわきでやっているが、相馬でもやってほしい。ただし、経産省が 50 台発注したらしいが、届くのは早くて 9 月らしい。

・ 道路について

南相馬を通る主要道路は、南北の国道 6 号線と福島に抜ける東西の 12 号線。6 号線は、南方向へは原発のために移動できなくなっている。北方向や南相馬市内では、津波の被害にあった地域で片側通行の箇所があり、対面通行できるようにしてほしいという要望がある。また、12 号線も飯舘村との境辺りで 3ヶ所ほど片側通行になっており、夕方などには渋滞を引き起こしている。これらについては、補正予算で何とかしてもらおう方向で動いているようだ。

前述のように、12 号線は南相馬にとって、物資輸送の点でも避難経路としての点でも非常に重要である。飯舘村が計画避難地域になったのちも、道路通行に支障をきたさないような形で進むことが望まれる。

また、南相馬から相馬にかけての部分は、常磐道の建設がほぼ完了しているため、この高速道路を緊急時に使用可能なように整備を急ぎ、使用可能な体制を取っておくことが重要である。

・ 仮設住宅

まず、592 戸の仮設住宅（17 日の情報、16 日の情報では 505 戸）の建設と申込みが 15 日から始まっている。鹿島区内で 4ヶ所建設することになっており、場所は選べない。電話での申し込みが多いとのこと。県からは、増設の方針が伝えられている。17 日に建設現場を通りかかったところ、コンクリートの基礎が並んでいるのが見え、急ピッチで建設されているもようだった。

相馬市では、1200 世帯が被災しているのに対し、1400 戸の仮設住宅の建設が始まっているのに対して、南相馬市では被災者の数に対して予定されている仮設住宅数が少なく、桜井市長は不満を感じてらっしゃるようだった。

・ 東電仮払金、義援金等

15 日に実施した説明会での申込書の受取枚数は、住民票発行枚数を 150 枚超えており、重複を考えても、関心が非常に高いのと市内に戻ってきている人が増えていることが伺える。

30km 圏内の住民は、一世帯当たり計 145 万円（東電仮払い金 100 万円、赤十字共同募金義援金 35 万円、福島県義援金 5 万円）（ただし、1 人世帯は仮払い金 70 万円）を受け取ることができる。30km 圏外については何もなかったことから、南相馬市から義援金として 1 世帯 5 万円を配布することにしたが、額の違いに文句を言う市民もいるとのこと。鹿島区も含めた全市で自主避難を勧告してきたことから、30km 圏外についても別枠での補償を更に検討していくとのことだった。また、東電に対しても、市全体として補償を考えてほしいとの要望を出している。

・ 罹災証明

罹災証明には、現場確認が必要なため、証明書発行に遅れが生じているようだ。市の職員の中にも、身内や知り合いをなくした方も多く、被災地に入りたくない心情の方がいたり、放射線が気になるので行きたくない方がいたりするらしい。

・ 復興に向けて

市長、官房長官ともに、原発の問題が解決するまでは、福島では様々な障害が消えないと考えられ

るため、復興に向けて福島は岩手・宮城と同じスキームではうまく行かないだろうという見解で一致したらしい。原発については、東電での記者会見でも公表されたが、3ヶ月で今後の見通しを立て、その後3ヶ月で封じ込め、その後の3ヶ月で避難区域の再設計が考えられているらしい。市長の話では、モニタリング結果を踏まえて小高区も入れるような区域割りを考えていると官房長官から会談で話されたそうだ。市長としては、その場で生活ができる状態にするとの発言だと受け取っている模様。

津波の被害にあった地域の復興に関しては、市長は水田も使えないだろうし、リスクもあることから復興特区で規制緩和して、自然エネルギーの開発拠点にしたいとの考えを持っているようだった。震災の前から、原町火力発電所に近くに風力発電所の建設を計画していたようで、それをさらに推し進めたいとおっしゃっていた。池田経産副大臣も、産総研が研究拠点を作るとかはできないかね？等とおっしゃられ、個人的には大賛成なので上に伝えますとお答えした。増子前経産副大臣も、同様のことをおっしゃられた。(18日に部門長にこの話を電話で伝えたところ、経産省からの正式な話がなければ、産総研は動けない。個人としてそういう場では全く分かりませんとだけ答えなさいと回答もらった。国を通して上から指示を出させることが必要らしい。。)

復興に向けて、市長は相馬馬追いをやりたいと考えているが、増子参議院議員や一部の市議らは否定的な考えを持っているようだ。相馬市長もやるべきだとの考えで動いているとのこと。

1. 5. 避難所での聞き取り (宮城県丸森町筆甫小)

・ 避難に関わる聞き取り

4年前に廃校となった筆甫小校舎に避難されている方は、3月11日の地震後に避難し、原発の問題が生じた後に3月16日に再度移ってこられた方々。最初は200人近くいたが、29名が飯坂温泉や会津等の他地域に移られ、市内に戻られた方などもおり、4月16日現在、20世帯112名が避難生活を送られていた。全員が二度の避難をされてきた方。4月15日から申し込みが始まった仮設住宅については、そのうち2世帯が申し込みをし、3世帯で検討中とのこと。放射線も気になることから、仮設住宅への申し込みが少ないようだ。

避難後しばらくは、看護師もいなかったため、薬を飲み忘れるお年寄りの方が多かったが、今は看護師が巡回しているため改善している。お年寄りの方の中では、認知症が進んでしまい、家族から離れたがらない方も増えたそうだ。それどころか、避難所生活に慣れず、津波で死ぬばよかったといわれる方もおられて、周りとしても辛い気持ちになることもあるそうだ。また、お年寄りの方の奥で、避難所に来てから、トイレが遠いことや慣れ脱ぎ着が大変なため、普段漏らしたりされない方もパンパースを付けられている方も多いらしい。また、学校のトイレでしゃがむトイレでしゃがんで、立ち上がれなくなっていた方も多くいらっしやっただけで、その後、ポータブルトイレで対応してその問題はなくなったが、お年寄りの方でもポータブルトイレを使いたがらない方もいらっしやるとのこと。

お風呂に関しては、避難してきて1週間ぶりに丸森町の銭湯に入ることができたが、一人500円と高く、家族で毎日入るなどということは難しかった。今は、学校内に手作りのお風呂が作られ、薪を焚いて沸かして、代り代わりに入っている。



洗濯については、水場で洗濯をして校舎の下などに干している。布団の干場も、4月15日にできたため、部屋ごとに順次干していくらしい。



- ・ 避難所における食事について

震災直後に筆甫小に来る前は、一日一食などおにぎりやパンだけの食事もあった。筆甫小に移って最初の二日間は自衛隊が炊き出しをしてくれ、その後は、調理実習室を使った調理も可能となり、ご飯を炊いて用意したりできた。パンは一日1食に制限して、できるだけ他の食事を出すようにしている。最初の頃の典型的な食事は、“ご飯・缶詰め・ふりかけ”といったものだった。当初のその頃は、多くの人のご飯を山盛り欲しがったようで、いつ食べるものがなくなるかが不安だったためらしい。現在ではそのようなこともなくなっているという。調理実習室での調理は、各部屋代表のような形でお母さんたちが出てきてみんなで行っている。メニューもみんなで相談しながら、栄養を考えて作っているらしい。また、3歳から90歳までいることから、小さい子供とお年寄りに対してはそれぞれに合う食事を作っている、この避難所は、最初から物資が多かったようで、最近は一食に一品おかずも付けているようだ。ただ、毎日3食の調理は大変なので、たまの炊き出しは非常にありがたいとおっしゃっておられた。



- ・ 学校について

学校については、南相馬市から、避難所のある自治体の学校に通って下さいとのお願いが出たこともあり、小学生8名の内7名と中学生1名は、丸森町の小学校と中学校に通っている。1名の小学生は、南相馬市内の学校の再開を待って、そちらに通う意向。やはり、同じ学校の友人たちと離れたくない離したくないという気持ちも働いているらしい。お昼のお弁当は、上記の食事と同様に調理時実習室で作って全員に持たせている。



- ・ 仕事について

仕事は、相馬や原町まで1時間かけて通われている方が多い。また、企業によっては、中通りに出張所を設けて、そちらへ通われている方もいるらしい。市内に市民が残っているのと、市役所職員が市内から筆甫小に通ってきていることから、仕事の都合上市内に戻りたいという気持ちと原発が不安という気持ちのはざまにある人が多いようだ。

1. 6. ボランティアについて

- ・ 現状と必要な労働力

南相馬におけるボランティアセンター立ち上げ当初の作業であった、要援護者への食料・生活物資の配達業務は縮小しているらしい。要援護者の中で市外に避難された方が多いためらしい。

また、この2週間強の間、塾を運営されている方などの協力で、小学生から高校生まで週二回の授業を行っていただく補助も行ってた。小学



生は 45 分、中高生は 60 分の授業で、全部で 120 名ほどが参加されていた。また、学校の時間割と同じように時間割を作成して、本を読んだり遊んだりする寺小屋プロジェクトや託児所なども運営されていたらしい。22 日からの学校再開に合わせて、これらの子供向けのプロジェクトも大きく縮小されることになっている。



今後は、被災地における片づけや遺留品の洗浄作業などの災害復旧関連プロジェクトに労働力が必要な状況になってきている。今月中は、特に遺留品洗浄作業に携わる人の手が欲しい。震災で亡くなった方の 49 日が今月末であり、それまでにある程度の量をご遺族の元にお返ししたいが、写真等を洗浄するには大変な手間がかかるのに対し、警察・消防・自衛隊から続々と遺留品が運び込まれてくるので、先が見えないとのこと。16 日も 30 人体制で作業したが、まだまだ作業は増えているらしい。現在は洗浄している場所で展示も行っているが、来週以降、栄町柔剣道場に展示会場が移るため、作業スペースは増えると考えられる。週末に民主党秘書団 30~40 人をここに入れるのがよいと思う。

・ 遺留品の洗浄作業

遺留品は、警察・広域消防・消防団・自衛隊が捜索の際に見つけてきた写真、アルバム、ランドセル、カバン、置物、貴金属、ナンバープレート、通帳や定期や運転免許証などの個人情報であり、それらを洗浄・展示して、持ち主や遺族やお知り合いの方にお渡しする。洗浄作業は、雑巾やタオル、刷毛や歯ブラシなどを使って丁寧に泥を除いていく作業。一人のボランティアが、一日当たり 1~2 杯のバケツの遺留品の洗浄をしている。バケツ一杯当たり、大きなアルバムであれば 3~4 冊、カバンやランドセルであれば 3~5 個が入っている。アルバムは、中まで泥水が入り込んでおり、一枚一枚の写真をきれいにする作業に加えて、アルバム自体もきれいにする作業がある。モノクロ写真は水で洗浄できるが、カラー写真は水を使えないので乾拭きを重ねてきれいにしていく。

ボランティアにいられている人は、長期でいられている人が多く、落合君と一緒に作業した人は、イラストレーターや登山ガイド、ミュージシャンや定年後のおじさんなど自由のきく方が多かったらしい。週末だけということで、福島からきている OL 二人組などもいらしたらしい。

1. 7. 現地での具体的作業

・ 炊出し (みたらし団子・牛丼・ヤマメ甘露煮)

南相馬市から 20 世帯 112 人が避難している宮城県丸森町筆甫小で、3 台の大型車で岐阜から運び込まれた炊出し用具により炊き出しを行った。みたらし団子 400 本と飛騨牛の牛丼 200 食(お代わり自由)、ヤマメの甘露煮 200 人分である。美味しい甘露煮は、岐阜の工場がボランティアで作って真空パックにして提供して下さったもの。みたらし団子は、団子屋さんが焼くためのセットのレンタルも込みで提供して下さったものである。団子は現場で焼き、米も現場で炊いて調理。僕の担当は、牛丼のご飯注ぎ。ピーク時には牛丼を渡す速度に全然間に合わず、必死になって注いでいた。お代わりしに来る人も多く、美味しい美味しいとの大合唱は大変嬉しかった。また、終わった後に、子供たちが作ってきた“美味しいかったです、ありがとう”の折り紙には思わず涙が出るほどだった。岐阜からはるる炊出し用具と材料を持ってきて下さった今井議員ら岐阜から駆け付けた皆さんや岐阜で調理に協力された皆さんに感謝の言葉は尽きない。

また、丸森町からの帰り道、南相馬市鹿島区の避難所まごころセンターにも 80 匹程度の甘露煮とみたらし団子を届けて、夕食に出していただくことにした。





1. 8. 個人としての行動

・避難所への卵・野菜の持ち込み企画

前回の南相馬入りの際に、原一小でたんぱく質や野菜が足りないという話と、調理が可能で卵や煮物にできる野菜をという話をお聞きしていたので、3日前に原1小体育館に電話して、今でも必要かどうかを確認した上で、それらを持ち込むこととした。ラーメン企画の時と同様に、つくばの八百屋、フレッシュやおかねの金子武雄さんが提供してくれた。卵 300 個、それぞれ段ボールにいっぱいの人参・キャベツ・白菜・ジャガイモ・玉ねぎに数十本の牛蒡と大根と、想像以上にたくさんのものを提供頂き、毎度のごとく感動した。卵以外の野菜は、一部を取りわけて宮城県丸森町の筆甫小にも持ち込み、必要なければ持ち帰るという形でお話ししたところ、喜んで受け取っていただいた。



・車いすを必要とする人への寄付のマッチング

ハートケアプロジェクトで集めていただいた車いすを 8 台福祉部に寄贈する件で、金曜日に関西から発送して頂いたことを垣内さんへの電話で確認した上で、到着先である 30km 圏外の相馬総合卸売市場とそこまで運んでいただく佐川急便の相馬集積場に 16 日の午後に行き、翌日の到着後の流れについて相談した。17 日の車いす到着後に相馬総合卸売市場の日通担当者から連絡をもらい、小川町体育館で待ち合わせた上で南相馬市役所の東庁舎に運び込んだ。桜井市長に車いすの到着の話をしたところ、俺もそこに行くよと言って降りてきて下さり、



車いすを広げて一緒にチェックをして下さった。また、車いすを南相馬市へ寄贈するという
ことで、記念撮影も行った。

5台を自衛隊にお渡しするのは、福祉課の高
島課長にお任せし、原一小への3台の車いすの



寄贈は自ら持って行った。お渡しするお年寄りの方は、お休み中だったようなので、お名前をお伝えした上で、避難所の係の方にお預けして帰ることとした。70代から90代のお年寄りの方々が、今後避難所から出られた後も、あの車いすで生活が楽になればとても嬉しい。

・小学校・中学校における放射線量調査

22日の開校に向けて、4月5・6日に福島県が小学校や中学校などで放射線量の計測をしていた。ただし、それらはグラウンドでの値のみであり、教室や体育館などの児童が長い時間を過ごす場所ではないため、実際に曝露する放射線量よりかなり高い値と考えられる。そこで、開校予定の学校において、教室も含めた放射線量測定を行うこととした。ここで、携帯型デジタルβγ放射線測定器 カルテックスⅡ (RADEX RD-1503, ロシア製)と、環境放射線モニタ (PA-1000, 堀場製作所製)の2種類の測定器を用いて、それらの機差についても評価することとした。カルテックスⅡとPA-1000は、それぞれGM管とシンチレーション検出器という異なる検出器を用いた測定器である。



小川市議に同行いただき、測定も手伝っていただくこととした。上真野小での測定に手間取ったこともあり、鹿島中はグラウンドのみ、その他の開校する学校の測定はできなかったため、中途半端な調査になってしまい、とても申し訳ない気分がいっぱい。

結果は、次の6枚の図の通り。上真野小において、1階～3階の教室の位置による違いはみられなかった。体育館は教室よりわずかに高く、運動場は明らかに高かった。体育館での値が高いのは、鉄骨造りであり、教室のような鉄筋コンクリートでないことがその原因と考えられる。教室の中では、前方(教壇脇)と中央での放射線量の違いはなかったが、窓際は高かった。同じ屋外でも、アスファルトの玄関よりも土の運動場における放射線量が高かった。これは、アスファルト場では雨などにより洗い流されることが多いためではないかと考えている。学校別の運動場における放射線量には違いは見られなかった。また、体育館における放射線量は、データは少ないが、原一小の方が上真野小よりも低かった。これは、上真野小体育館が鉄骨造りなのに対して、原一小が鉄筋コンクリート製なためと考えられる。カルテックスⅡとPA-1000は、低い放射線量では近い値を示していたが、 $0.5 \mu\text{Sv/h}$ 以上は、PA-1000が約40%高い値となっていた。この違いは、GM管とシンチレーションカウンターの違いにと、エネルギー範囲の違いによると考えられる。エネルギー範囲は、カルテックスⅡは0.1-1.25MeVであり、PA-1000は0.15MeV以上である。PA-1000は天然の ^{40}K の γ 線(1.461MeV)を拾って高く出ている可能性もある。

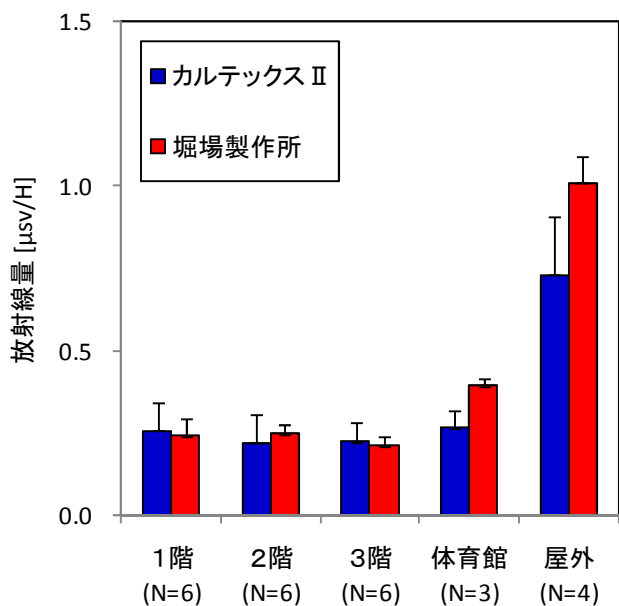


図. 教室の階数, 場所別の放射線量

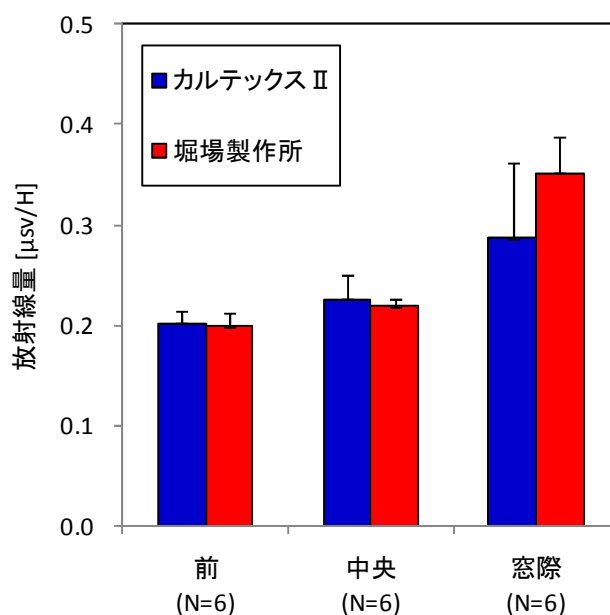


図. 教室内の位置別放射線量

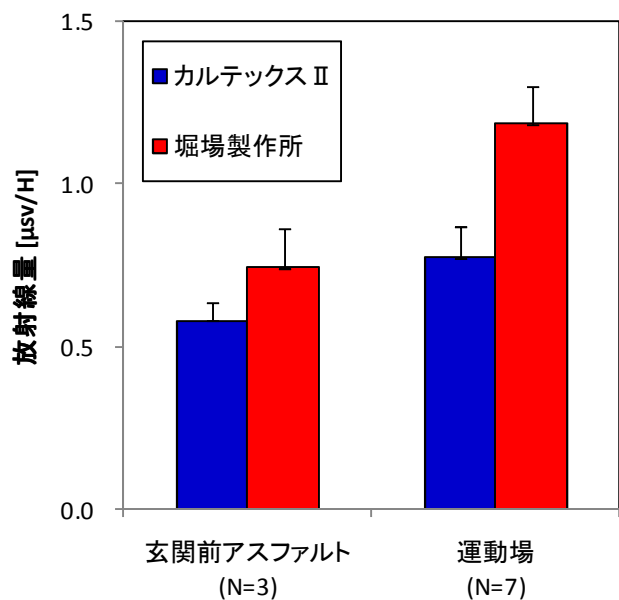


図. 学校内屋外場所別放射線量

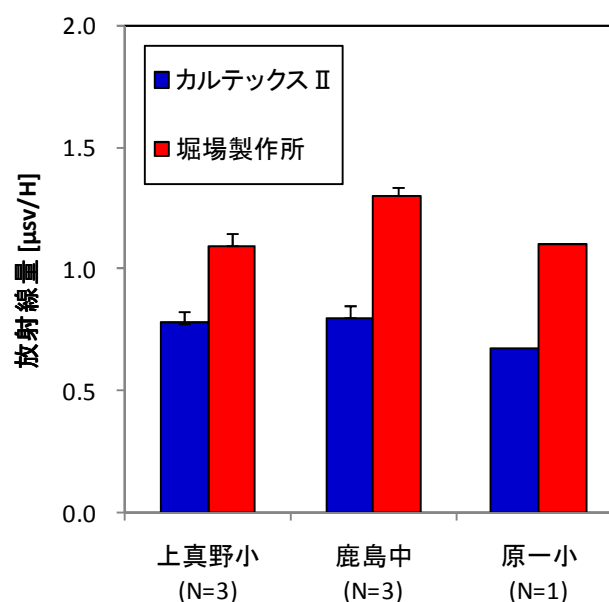


図. 学校別運動場放射線量

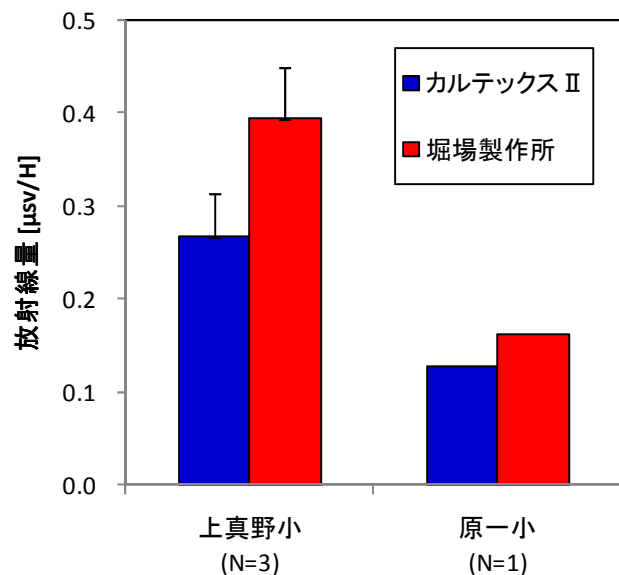


図. 学校別体育館内放射線量

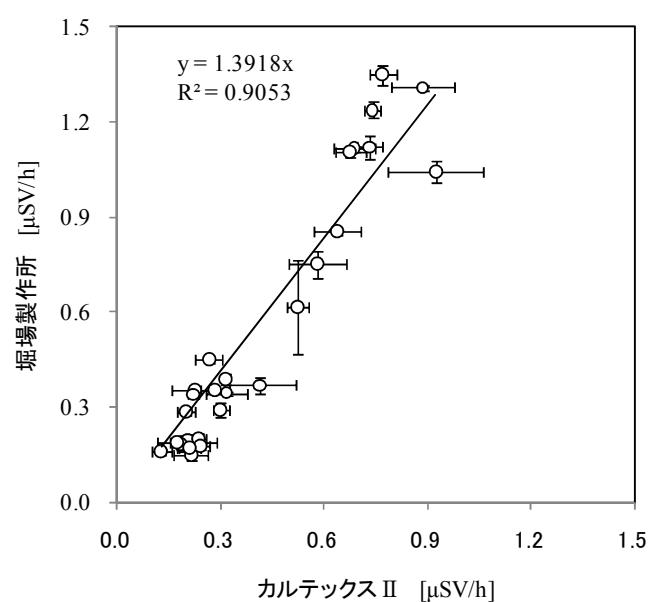


図. ロシア製カルテックスと堀場製作所機器の放射線量データの相関

1. 9.

感想、今後の予定等

16日の夜、寝袋に入って寝ようとしていたところ、桜井市長から高邑さんに電話が入り、明日11時に枝野官房長官が来るという話がきた。17日は、朝からいつもは閑散としているマスコミが大挙して南相馬市役所に押し寄せ、枝野さんのスケジュールや桜井市長の会見に関するスケジュールを確認しに来たため、市長公室は大わらわだった。ただ、予想していたよりも手間は掛けていなかったように思われる。枝野さんは、市役所で市長らとの会談をした後、南相馬市役所で防護服に着替え、20km圏内の視察（村上地区）に向かわれた。高邑議員と私は、市長記者会見の後、遺留品展示事情候補地の栄町柔剣道場を視察し、放射線のスクリーニング所となっている相双保健所でいろいろとお話をお聞きしていたところに、枝野長官がスクリーニングに戻ってこられた。後日談になるが、枝野長官が20km圏内の被災地を見ての言葉を述べられていたところで、高邑議員と枝野さんのSPと一緒にカメラに映ってしまったらしく、バンキシャでも映像が流れてしまったらしい。職場では快く思わない人も多いため、テレビカメラ等に映るのは気を付けた方が良さそうだ。

16日の夕方には、池田経産副大臣が南相馬市役所にフラリと来られた。その前に、被災地や避難所を議員だということを隠して回ってこられたらしい。そして、「議員と分かると本音を言わないし、本当の視察にならないからね」とおっしゃっておられていた。避難されている方の状況や被災地の状況をきちんとつかもうとされている姿勢は嬉しかった。

17日の夕刻に、学校測定から市役所に戻ってきて、増子参院議員らとの打ち合わせに参加した時、増子参院議員に同行されていた方が、あるチラシを持ってきた。そのチラシは、20km圏内に取り残されたペットを迎えに行きたい飼い主に、無料でバスを出して現地まで連れて行き、ペットと共に帰路も運びますというものだった。防護服やマスクや手袋も用意するとしており、かなり用意もいい。警戒区域に指定された場合には中止にするとの記述もあり、法律もきちんと検討していることが伺える。しかし、それに対しての増子議員やその同行者、経産省の職員の反応は驚きのものであった。「何から何までいたせりつくせりじゃないか。こんなことして彼は何の得になるんだ」「善意なのか？いやいやそれはない、何か裏があるはずだ」「法律的には問題ない、どうすればやめさせられるんだ」「20km圏内で泥棒働くつもりだろう」などと散々ひどいことを言いまくったのだ。彼らはボランティアというものを知らないのか？その精神を知らないのか？？？挙句には、県に電話して何とかやめさせようとする始末。腹が立って腹が立って仕方無かったが、ここで言っても変わらないからと、つい口を閉ざしてしまっていた。こんな性悪説の塊が国を動かしているのかと思うと悲しい。確かに、そのバスに乗って犯罪を働こうとするものが中に入るかもしれない。それに対する対策は考えていないだろう。であれば、そういった穴を埋めてやろうと考えるのが上に立つ者のやることだろう。家を失った人々が、家族であるペットも自分の手に見殺しにしろと言うのか？バスを止めるなら、いかにペットを救うかを考えろよ。それができないなら、文句言うな、と思ったが、口には出せなかったのは、自分が大人になったのか日和ってしまっただけだったのか。嫌な時間だった。

南相馬市の沿岸部の捜索作業は30km圏外では順調に進んでおり、20～30km圏内では、排水作業のためのポンプが足りないために作業が進まない状況。20km圏内は防護服などが必要なことと、農



業用の小型ポンプしかないためにほとんど作業が進んでいない。20～30km 圏内での排水作業を緊急的に進めたいという話が会議で出たため、排水ポンプと言えば荏原製作所がやっているかもと、HJPでもお世話になっている荏原商事社長の島田さんに電話して、そういったところで使えるポンプがないかをお聞きした。翌日には、島田さんから連絡があり、荏原商事で卸した排水ポンプ車を、福井県と福井県大野市で一台ずつ持っており、国土交通省から要請があればいつでも出せるとの話をいただいた。至急南相馬市に常駐している経産省の苦瓜さんに連絡したところ、20～30km 圏内での排水作業用のポンプは何とか国交省から手に入れたが、20km 圏内で使えるようにしたいとの話をいただき、後は、自治体間及び省庁間のやり取りをしていただくように、お互いの連絡先をお伝えすることとした。排水ポンプ車を持っている自治体も、どこで必要なかの情報もなく、国交省からの要請もない（国交省でも各自治体の保有している排水ポンプについては把握していないのだろう）ため、被災地で役立てたいと思っても出せない状況にあつたらしい。一市民が、こうやって需要と供給を結ぶことができ、被災地のために役立てたことがとても嬉しい。島田さんは、突然の電話に対してすぐに対応して下さり、とても頭が下がる思いだ。いろいろな人との繋がり大切さを改めて実感した。

鹿島区のまごころセンターの壁には、支援物資を送った芸能人らのメッセージが張ってあった。梱包の段ボールにメッセージが書かれていたようで、勇気づけられるだけでなく、現地で邪魔にならないようにとの配慮も感じられて、胸が熱くなった。

